

北区日中会報

初 行 日
令和 6年1月1日
第 5 5 号

編集 北区日中友好協会広報
発行 北区日中友好協会
東京都北区王子2-14-17
丸山事務所内 TEL03-3911-2381

令和6年

新年を迎えて



やまだ加奈子会長

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。

2020年以來、新型コロナウイルスの蔓延により、わたくしたちの社会活動は大きく制約をうけてまいりましたが、昨年5月に5類感染症に移行され、コロナ前の社会活動が戻り、様々な分野での正常化が図られました。また、海外からの訪日客も着実に増加し、様々な交流が再開されてきております。日中間においては日中平和友好条約発効45周年を迎え、様々な記念行事が開催されました。また、日中首脳会談が11月に開催され「戦略的互惠関係」の推進と新たな時代の日中関係への意思疎通を重ねていくことで一致しました。

一方、当会に於いては、当初予定されていた一部の行事を変更または中止せざるを得ませんでした。1月には「二胡・雑伎・変面ショー」を、6月に4年ぶりの定期大会と友好交流促進懇談会を開催、10月には4年ぶりの区民まつりに参加・協力しました。さらに新企画として横浜中華街散策を実施しました。また、中国教育視察訪日団の北区立王子小学校訪問を受け入れた他、北区平和祈念週間・納涼盆踊大会に日中友好会館後楽寮から国費留学等の寮生をご招待しました。

本年は、昨年以上の日中間の交流が期待されますが、当会は新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと凝らしたうえで、様々な行事を立案実施していきたいと考えます。年初には昨年で開催して大変高い評価を頂いた「二胡・雑伎・変面ショー」を開催いたします。以降につきましては、具体的な行事は立案できていませんが、随時、行事計画が決定した段階で皆様にお知らせいたします。

新型コロナウイルスは、5類感染症に移行されたとは言え、周期的に感染が拡大しております。会員各位におかれましては、昨年同様、正しく恐れ、油断せずにお過ごしいただければと思います。

結びに新年が皆様にとって、幸多き年であることをお祈り申し上げます。

「横浜中華街散策」を開催

12月3日、北区日中では師走で多くの人出で賑わう横浜中華街に繰り出し、周辺を散策しました。王子駅に9時20分に集合した7人は京浜東北線で約1時間かけて石川町駅に到着、現地集合の人と合流し、早速、8人（内中国人3人）で中華街に向かいました。中華街大通りでは、既に多くの人出に溢れ、なかなか前に進めないほどに。ようやく到着した中華飯店には予め予約を入れてあり、個室での時間無制限食べ放題にドリンクバー付。この日のために前日の夕食から食事を抜いてきた？参加者も、さすがに若者ほどには及ばず、それでもオーダー形式で運ばれる熱々の大皿料理を会話を楽しみながら、堪能しました。お店を出ると



益々大勢の人で通りが埋め尽くされている中、次の目的地の山下公園に向かいました。係留されている氷川丸をバックに記念撮影後、港の見える丘公園に移動しました。年配者には少々きつい階段、坂道が続きましたが、満腹後の腹ごなしには丁度良い運動となりました。お天気にも恵まれ、公園から見下ろす景

色に心が少し豊になった気分を味わいました。次に訪れたのは外国人墓地。まずは資料館を見学後、墓所を巡りました。幕末から近現代にかけて亡くなられた約5000柱が埋葬されているとのことですが、日本の近代化に尽力・貢献された多くの外国人の記念碑、銘板も所々にあり、教科書だけでは知り得ない歴史に触れることが出来ました。最後の目的地は元町商店街。ウィンドーショッピングを楽しんだ後、カフェに入り、疲れた足を休めました。（ここまで約12,000歩！）

参加者からは「とても楽しかった」との感想があり、その余韻に浸りながら石川町駅から家路に向かいました。



中国教育視察訪日団 王子小学校訪問

北区日中では都日中からの依頼を受け、中国教育視察訪日団（小中学校教師他34名）の王子小学校訪問を受け入れました。王子小は来年創立150周年を迎え、北京第一実験小とは1985年から姉妹校となっています。10月2日午前、到着した一行は先ずホールに案内され原田英孝校長から歓迎の挨拶を受けた後、楊東平団長（北京21世紀教育研究院名誉理事長）、李鎮西副団長（成都市教育科学発展研究院主任）から受け入れ御礼の挨拶と訪日団の紹介がありました。その後、休み時間に校庭で元気に遊ぶ児童達に挨拶されると、その内の一人が中国人児童と分かり、団員の教師はビックリ。児童約800人の内、中国人児童が約50人在籍していると



説明すると、驚いた様子でした。また同じ敷地内の王子桜中学校も副校長が中学校側の施設案内をして下さり、団員は教室や壁に掲示されている時間割や部活動の予定表などをスマホで興味深く撮影していました。ホールでは、質疑応答の時間が足りないほどで、後日、メールでの問い合わせには回答の対応をすることとし、団員の先生方も王子小の対応に感激の様子

でした。また、団員全員に日本手ぬぐいと浮世絵の扇子セットが記念品として贈られ、視察団からは王子小に唐三彩が贈られました。帰り際の集合写真の後、北区日中事務局より正門横の皇太子殿下ご夫妻行啓記念碑（創立100周年記念）と孔子の故郷曲阜から実生で贈られ大きく成長した樺の木の説明を受け、王子小の歴史と中国との関わりの深さに大きな感銘を受けていました。日中関係が不安定な時期に訪日された中国視察団の教師の皆さんが自分の目で確かめた日本と日本人を帰国後に同僚や教え子の生徒さん達に伝えて頂くことが、日中関係改善の一助になることを祈念しています。



納涼盆踊り大会に中国人留学生を招待

8月1日に北とぴあ・飛鳥ホールで開催された北区平和祈念週間・納涼盆踊り大会に日中友好会館後楽寮から国費留学等の寮生男女14名(他引率2名)をご招待しました。また、公益財団法人日中友好会館の黄星原中国代表理事と奥様の馬麗さんにもご参加いただきました。この日は激しい雷雨に見舞われましたが、

夕方には雨も上がり、過ごしやすい夕刻になりました。会館到着後、全員浴衣または甚平に着替えて写真撮影の後、1階玄関前での太鼓の演奏を見学しました。会場では、4年ぶりの開催を待ちわびる多くの人々が既に集まり、寮生達は少し緊張気味に開会を待ちました。主催者代表挨拶、山田加奈子北区長(北区日中会



長)の挨拶の後、来賓紹介があり、いよいよ盆踊りがスタートしました。寮生達は盆踊りの輪に入り、東京音頭や炭坑節など、前の人や隣の人をまねて踊り始めました。ほとんどの寮生は、浴衣も盆踊りも初体験で、最初は、ぎこちないようも見えましたが、暫くすると、周りの日本人の輪に溶け込んでいました。休憩を挟んで

北区総務課が用意してくれたお弁当を頂いている途中、偶然、会場近くに住んでいる後楽寮の卒業生夫婦と出会い、馬麗さんや寮生達と懇談する微笑ましい光景も見られました。盆踊り終了後は、会場近くの町中華・天安門に移動し、北区日中主催の懇親会を開催しました。皆川副会長の歓迎の挨拶の後、盆踊りの途中で退席された黄代表理事に代わり、奥様の馬麗さんの乾杯の発声で懇親会がスタートしました。コロナ渦で寮の食堂が閉鎖中の寮生達にとって、暫くぶりの中華料理をつまみに会話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。丸山事務局長から北区日中の紹介の他、中国の歌のプレゼントまで飛び出し、終始和やかな内に懇親会を終了しました。

